

- 1 派遣期日 令和5年8月10日（木）
- 2 派遣先 筑波大学附属小学校
東京都文京区大塚3-29-1
<https://www.elementary-s.tsukuba.ac.jp>
- 3 研修内容

研究テーマ

豊かな言語生活を拓く国語教育の創造

ー「言葉の学び」への自覚が育つ単元学習の開発ー

（1）基調提案

日本国語教育学会研究部長 藤森 裕治先生

テーマ

子どもとともに在る教師の身体を考える

「言葉の学び」が育つ学室

昨年の基調提案では、言語生活者としての学習者が「言葉の学び」への自覚をもって生きるための構造として、次の四局面が円環をなして展開する学習論モデル（4CHモデル）が提示された。

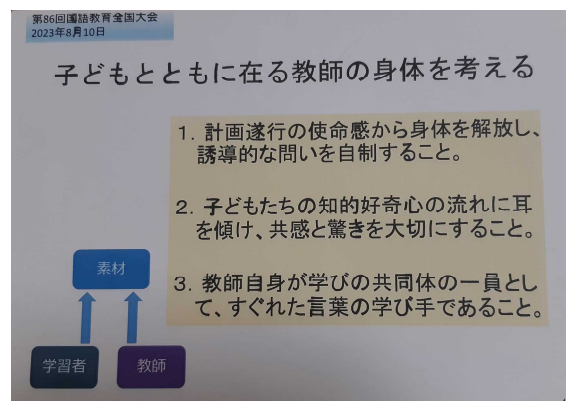
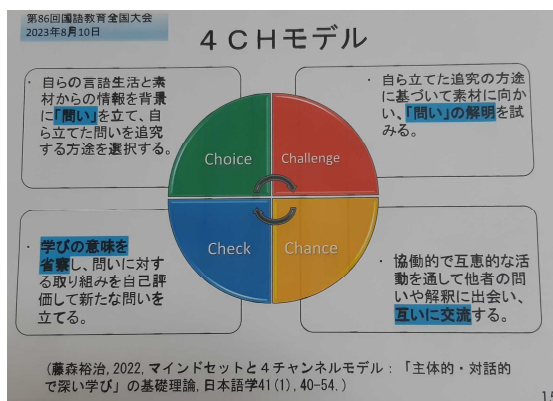
選択（Choice）：学習者が自ら問いを立て、学び方や学習材を選ぶ局面。学びの主人公が学習者となる局面。

挑戦（Challenge）：学習者が失敗を恐れずに、自ら選択した学びに向かう局面。絶え間ない試行錯誤への挑戦こそ、保幼小中高を貫く学びの基本。

体験（Chance）：学習者が他者と交流し、さまざまな見方・考え方や出来事に出会う局面。他者の声と出会う中で、学習者は社会的な存在として成長していく。

省察（Check）：学習者が体験の意味を省察し、次なる学びを展望する局面。何がわかり、できるようになったのか、何がまだそうっていないかを、学習者自らが言葉にし、新たな学びにつなげる局面。

このモデルを踏まえて今回は、教師と学習者とは協働の問題探求者、すなわち同じ地平に立つ学習主体として材に向かうという関係性が新たに提案された。教師は学習者の学びを管理者・支援者という立場から見下ろすのではなく、学習者の範となる言葉の学び手として学室に存在し、かれらとともに、あるいは伴走者として生きるような関係性である。



(2)『第86回 国語教育全国大会 研究授業指導案』

授 業 1 (小学校6年)

校名：筑波大学附属小学校 2部6年 32名
授業者：筑波大学附属小学校 郭 延 浩 史

1 単元名 「ファンタジーの秘密を探ろう」

2 単元設定の理由

文学的文章の学習において、最終的な目的となるものは「その作品から自分が強く心に受け取ったこと」を表現することにあると考える。例えば、高学年であればその作品の魅力を紹介文として書くことや、プレゼンテーションするという言語活動をおこなうことができるだろう。しかし、実際にこうした表現する活動をより充実させたりしていくには、「同一ジャンル」「同一テーマ」「同一作家」というような、作品どうしのつながりがあるものを読んでいくことが重要なのではないだろうか。

なぜなら、それが「学びの自覚化」につながるからである。国語科の学習において、「自分は何を学んだのか」、「学んだことをこれからどう使うのか（使っていきたいのか）」を自覚することが、主体的な学びの姿勢につながっていくだろう。そのためには、作品どうしにつながりがあるものを系統的に扱う方が効果的であると考える。

今回、ファンタジーの構成をもつ「きつねの窓」(教育出版6年下)を中心教材として単元を設定した。4年生の時から担任をし、国語科の授業をおこなっている学校だが、これまでさまざまなファンタジー作品を読んできている。4年生の「白いほうし」では、不思議な登場人物、出来事、現実と非現実の世界など、ファンタジー作品がもつ特徴や面白さを読み、感想にまとめた。5年生では、「つりばしわたれ」や「注文の多い料理店」を読み、非現実世界への入口と出口、そこで起きる出来事がどのような意味をもつかにについて考えたり、表現技法の効果などについて考えたりした。子どもたちは、「きつねの窓」と出合った時も、これまで読んできたファンタジー作品で学習したことをもとにして読もうとするだろう。

また、学級では、文学的文章の学習において「読後感」を起点とした学習を続けている。読後感とは、「初読の感想をひとことで表すこと」、「自分の気持ちを表す言葉にすること」を条件としているが、ひとことで表すことで、全員の読後感を可視化することができるよさがある。さらには、個々の読後感の違いを分類したり整理したりすることで、作品の詳細を読むことに対する必要感が生まれるのである。これまで、子どもたちは読後感をプラスイメージやマイナスイメージという言葉で分類していたが、「きつねの窓」はプラスにもマイナスにも分類できない読後感が出てくると考えられる。

そうした学びの起点を大切にしながら、自分たちがこれまで読んできた作品ともつなげてファンタジー作品の秘密を探り、それを表現していけるようにしたい。これまで、さまざまなファンタジー作品を読んできたことの集大成として、ファンタジー作品のよさ(面白さ)はこういうものなのだと、自分の言葉で発信できるようにしていく。

3 単元の目標

- ファンタジー作品がもつ構成や特徴的な表現についてまとめることができる。(知・技)
- 「きつねの窓」で読みとったファンタジーの秘密について、他の作品とも関連付けながらまとめることができる。(思・判・表)
- ファンタジー作品の秘密を、複数の作品と関連付けながら、自分が紹介したい方法でまとめようとする。(感)

4 単元の計画

第一次「きつねの窓」を読み、読後感を書き交流する…2時間

第二次「きつねの窓」を読み、ファンタジー作品の秘密についてまとめる…5時間(本時)

第三次 ファンタジー作品の秘密について紹介する…3時間

5 本時の指導

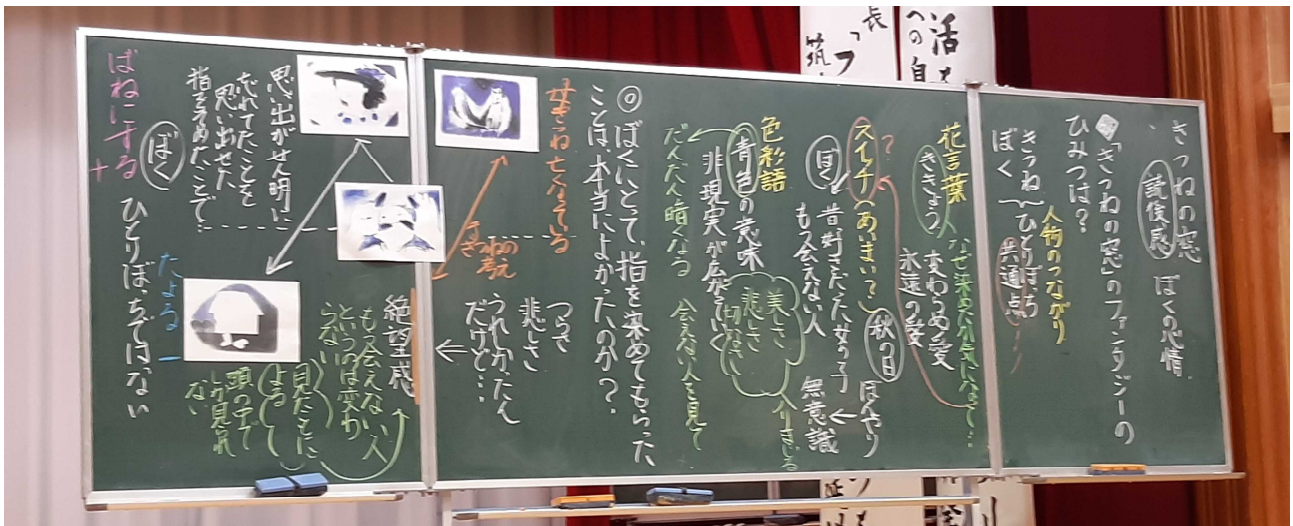
(1) 目標

ファンタジー作品の秘密を伝え合うことを通して、特徴的な構成や表現、非現実の世界で起きる出来事の意味に気づき、作品の面白さとしてまとめることができる。

(2) 展開 (7/11)

主 な 学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1. これまでの学習について想起する ○「はく」の気持ちは、何によって、どのように変わったかな	・読後感を起点に、物語を読んできたことを確認し、前時までに3つの意とはくの心情変化についてとらえてきたことを確認する。
2. 「きつねの窓」を読んで見つけたファンタジーの秘密について伝え合う。 ○どんな秘密を見つけたかな ◎他の作品と比べてみると… ◎読後感とのつながりを考えると…	・夏休み中に調べ、グループごとに教育クラウド内で共有してきたことを伝え合う場を設定する。 ・これまで読んできた作品や読後感とのつながりについての発言を中心に板書する。
3. 「読後感」とファンタジー作品の「秘密」から「きつねの窓」の面白さについて伝え合う ○読後感ではプラスにもマイナスにも分類できないものがありましたね ○ファンタジー作品の秘密を調べてみて、どんなことが分かりましたか。	・調べたファンタジー作品の秘密に、読後感とのつながりが見えた段階で、「複雑」「ややや」という読後感が出されたことを確認する。 ・「はく」にとって、きつねの窓はどのような意味をもつものだったかを問う。
4. これからの学習について見通しをもつ ○ファンタジー作品の学習で見つけた秘密をどのように紹介していきたいかな	・相手意識をもって学習のまとめができるよう、いくつかの活動から選択してできるようにしていく。

(3) 授業の板書構成



4 感想

授業では、読後感＝初発の感想を学びの起点として進められていた点が参考になった。

「初読の感想をひとことで表すこと」「自分の気持ちを表す言葉にすること」を条件として読後感を書き、全員の読後感を可視化したり、個々の違いを分類・整理したりすることで作品の詳細を読むことに対する必要感が生まれ、主体的な学びへと繋がっていくことが分かった。児童は本時に向けて、学びポケットのチャンネル機能を使い8人位のグループで交流活動を行っており、学習ツールを用いての交流の方法を知ることができた。授業での発言は、本文の○P.の○○の所、自己体験を話すなど根拠を示しながら自分の考えを自信をもって述べることができていた。授業者は、児童の意見の中の言葉を的確にとらえ、板書をして話し合いを進めて授業を組み立てていて素晴らしかった。